

### テーマ

学校紹介 PV を作ろう～複眼的な視点をもって

### 目標

学習レベル 日本人生徒 1 中国人生徒 4

- ・中国語(日本語)の表現力の向上
- ・他文化の多様性への視点を養い、自文化をふりかえる力を身につける。
- ・情報機器の活用(活動の効率化、生徒のモチベーションの維持、協働学習の促進)

### コミュニケーション能力指標

日本人生徒 レベル1

- 1-a 1日の生活の基本的なあいさつができる。
- 1-a 人とのつきあいによく使う基本的なあいさつ表現を、言ったり、聞いて理解したり できる。
- 1-a 名前(姓名)や属性(高校生、学年、年齢、誕生日など)を言ったり尋ねたりできる。
- 1-a 学校の名前や所在地(都道府県や市など)を、言ったり書いたりできる。
- 1-c 簡単な自己紹介を口頭でまたは書いてすることができる。
- 1-a 学校の名前や所在地(都道府県や市など)を、言ったり書いたりできる。
- 1-b 中国語で書かれた時間割(何曜日、何時間、科目など)を、見て理解できる。
- 1-d 学校のこと(制服、求職、宿題、体育館・図書室ほかの設備の有無など)について、口頭でやりとりできる。
- 1-g 自分が学習している科目名や学校の施設名を、書いて伝えることができる。

中国ルーツの生徒 レベル4

- 4-a 学校についての案内や行事のお知らせなどを載せた資料を作ることができる。
- 4-b 日本の高校生活の特徴や教育制度について、口頭または文章で説明することができる。
- 4-c 相手の国の高校生活の特徴や教育制度についての特徴や教育制度についての説明を聞いたり読んだりして、日本と比較しながら意見交換ができる。

### 学習シナリオ

#### <場面状況>

A 高校は外国にルーツをもつ生徒を受け入れ、英語のほか中国語や韓国語も履修できるなど国際理解教育に力を入れている。中国語に関する科目も入門から母語話者レベルまで多岐にわたり、その中には中国ルーツの生徒と日本人生徒が共に学ぶ「中国語エリア」という授業もある。「エリア」では中国事情について学習しながら、太極拳や伝統楽器などの文化体験もっている。今年度は授業の一環として本校を訪れる中華圏の高校生向けに「学校紹介 PV」を作成することになった。PV は学校の施設やクラブなどの紹介のほか、日中の学校の異同にも着目して作成するようにする。

#### <活動の流れ>

レディネス調査では、中国語及び情報機器の活用レベルに差がみられた。そこで、誰でも無理なく学習に取り組めるよう以下のように段階を踏んで授業を行った。

#### 【ステップ1 自己紹介動画作成】

授業では、簡単なあいさつ、自己紹介の表現の指導を行う。次に中国ルーツの生徒と日本人生徒でペアを組んでもらい、自己紹介文をそれぞれの外国語で作成し、iPad のカメラ機能を使って録画する。発音矯正、翻訳は協力しながら行う。また動画を見ることで、自ら発音や内容を直していけるようにもする。（形成的評価：自己紹介文の内容や動画の内容）

**【ステップ2 日中の高校の異同、自分の学校の魅力に関するプレゼンテーション】**

中国ルーツの生徒には日本の高校に来て、どんな事に驚いたのかまた興味をもったのかパワーポイントにまとめ発表してもらおう。また日本人生徒は自分の学校の魅力について同様にプレゼンをする。インターネットの使用も許可する。（ただし、画像の使用、引用については注意する。）（形成的評価：パワーポイントの内容、発表者へのコメント）

**【ステップ3 ステップ2をふまえたディスカッション】**

クラスを4つの小グループに分け、ステップ2の内容をふまえ、XingBoard(集散的な思考活動を支援するアプリ)を用いてディスカッションを行い、日中の高校の異同や自分の高校の魅力について箇条書きにしていく。内容については、話し合いの中で新たにでてきた意見も入れてよいこととする。

**【ステップ4 学校紹介 PV 作成】**

ステップ撮影・編集には iMovie、ロイロノートを使い、日中の生徒で協力しながら撮影、字幕付けを行う。完成したものを全員で鑑賞し、中華圏の高校生が興味をもてるような内容であるか検討する。交流時にはPVを流し、可能であればコメントをもらおう。また校内の1,2年生が集う「エリア発表会」でも発表することとし、担当を決め、原稿作成、リハーサルを行う。発表会後にはふりかえりを行う。

総括的評価

- ・ 作成した動画内容(各自の担当部分)
- ・ 「エリア発表会」におけるパフォーマンス
- ・ 「エリア発表会」後のふりかえり

3×3+3 分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なあいさつ、自己紹介、高校生活に関する表現がわかる。(中国語・日本人生徒対象)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中の高校の異同について理解することができる。</li> <li>・日本の学校の魅力について再認識することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会を生きていく上で、21 世紀スキルの一つである情報活用の学習は欠かせないことを理解する。</li> <li>・情報機器、アプリ (iPad のカメラ機能、XingBoard、iMovie、ロイロノート) の使い方について理解できる。</li> </ul>
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なあいさつ、自己紹介、高校生活に関する表現を使うことができる。(中国語・日本人生徒)</li> <li>・動画作成の際には、自分の高校の魅力がきちんと伝わるように、表現を工夫することができる。(見る人の興味を引くように感嘆詞や形容詞を工夫して用いる。一方説明は端的にし、飽きがないようにする。日本語・中国ルーツの生徒)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中の高校の異同の事由およびその背景にある考え方や価値について分析することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器、アプリ (iPad のカメラ機能、XingBoard、iMovie、ロイロノート) を実際に使って、ディスカッションや動画作成ができる。</li> </ul>
つながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中の生徒が協力しながら自己紹介動画 (ペア) を作成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション (小グループ)、動画作成 (小グループ) など内容や形態を変えて、日中の生徒が協力しながら学習を進めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器、アプリを使って作成した成果物を中華圏の学生との交流時や校内の集会で紹介し、フィードバックを得る。</li> </ul>
三連携	<p>【学習者】楽しみながら取り組める情報機器 (アプリ) の活用          【教室外】校内の特別教室、食堂などでの取材、エリア発表会への参加          【他教科】情報科 (情報機器 (アプリ) の活用、動画作成)</p>		

## 総括的評価に関する指示文

本校を訪れる中華圏の高校生に見せる学校紹介 PV を作ることになりました。より学校を理解してもらうために、本校の魅力や日中の高校の異同に着目して作成していきます。そのために、必要な表現を学び、情報機器に慣れることから始めます。最終的には字幕付きの学校紹介動画を作ってもらいます。提出物は以下の通りです。

## 提出物

- ・ 目標言語で書かれた自己紹介文
- ・ 日中の高校の異同もしくは学校の魅力についてまとめた  
パワーポイント
- ・ 上記発表を聞いた後のコメント
- ・ iPad のカメラ機能を使って作成した自己紹介動画
- ・ iMovie、ロイロノートを使って作成した学校紹介 PV
- ・ 「エリア発表会」のふりかえり

## 総括的評価のルーブリック

	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
語彙	学校紹介に必要な中国語(日本語)の語彙について積極的に学び、発表等で使うことができた。	学校紹介に必要な中国語(日本語)の語彙についていくつか使うことができた。	学校紹介に必要な中国語(日本語)の語彙についてほとんど使うことができなかった。	学校紹介に必要な中国語(日本語)の語彙について何も使うことができなかった。
文化事象の相違性の考察	日中の学校生活を比較してわかった異同の事由や背景、価値観などについて考えることができた。	日中の学校生活について理解を深め、その異同について発見できた。	日中の学校生活について理解を深め、その異同について発見しようとした。	日中の学校生活について理解を深めることができた。
情報機器の活用	ディスカッションや動画作成において積極的に情報機器を使用し、改善や工夫をした。	ディスカッションや動画作成において積極的に情報機器を使用した。	ディスカッションや動画作成において情報機器を使用した。	ディスカッションや動画作成において情報機器をほとんど使用せず、見ているだけだった。
グループワーク	グループワークにおいて、積極的に発言し、意見をまとめたり、ほかのメンバーもサポートできた。	グループワークにおいて、積極的に発言することができた。	グループワークにおいて少し意見をだせた。	グループワークにおいて周りがするのを見ているだけで、発言することはほとんどなかった。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2015\_実践課題  
 作成者：柳素子/大阪府立門真なみはや高等学校（中国語）

個々のタスク	小目標	中目標	大目標	テーマ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なあいさつ、自己紹介、高校生活に関する表現を理解し、発音練習をする。(日本人生徒対象)</li> <li>・日中生徒で協力しながら、目標言語による自己紹介の動画を作成する。</li> </ul>	基本的な表現を使って、情報機器を用いながら自己紹介動画を作成することができる。	ディスカッション、動画作成、発表に必要な目標言語の表現を身につけることができる。		
【形成的評価】自己紹介文の内容(表記の正確さ、表現の適切さ)及び動画にみられるパフォーマンス(発音の正確さ等)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の学校の異同(中国ルーツの生徒)や自分の学校の魅力(日本人生徒)について、インターネットなども用いてパワーポイントにまとめる。</li> <li>パワーポイントにまとめたものを発表する。</li> <li>クラスメートの発表を聞いてコメントを書く。</li> </ul>	情報機器を使って、異同や魅力についてリサーチや発表をするとともに、他のクラスメートへのコメントも提出することができる。	異同や魅力について理解するとともに、そこから背景や価値についても考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語(日本語)の表現力の向上</li> <li>・他文化の多様性への視点を養い、自文化をふりかえる力を身につける。</li> <li>・情報機器の活用</li> </ul>	<p>学校紹介PVを作ろう～            複眼的な視点をもって            &lt;場面状況&gt;            日本人生徒と中国ルーツの生徒が共に学ぶ中国語エリア(中国事情)の授業では、学校紹介PVを作って交流先の中華圏の高校生に見てもらった。</p>
【形成的評価】パワーポイントの内容、プレゼンテーション、コメントの内容(理解、気づき等)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスを4つの小グループに分け、XingBoard(集散的な思考活動を支援するアプリ)を用いて、ディスカッションを行い、日中の高校の異同や自分の高校の魅力を箇条書きにする。</li> <li>iMovie、ロイロノート(動画作成アプリ)を用いて、担当動画の撮影、字幕付けを行う。</li> <li>「エリア発表会」の担当を決め、司会進行、機器操作などに分かれて練習をする。</li> <li>発表後のふりかえりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器を効果的に使って、異同、魅力について協力しながらまとめることができる。</li> <li>情報機器を効果的に使って、学習した語彙を用いて協力しながら正しい訳文を付けることができる。</li> <li>正確な中国語や日本語を使いながら、パフォーマンス(アイコンタクト、ジェスチャー)ができる。</li> </ul>	交流先の生徒に興味を持ってもらえるような動画を作成し、またそれを効果的に発表することができる。		
【総括的評価】作成した動画内容(各自の担当部分)、「エリア発表会」におけるパフォーマンス、「エリア発表会」後のふりかえり				